

薬理学Ⅳ

Pharmacology Ⅳ

薬：E1-04322MY

医療科目 3年／後期 1.5単位 必修科目

科目責任者 野澤 玲子(臨床神経薬理研究室)

■教育目的

本講では、代謝性疾患治療薬、感染症治療薬、抗悪性腫瘍薬などの薬理作用・機序を中心として講義し、それらの治療薬の有効性・安全性の薬理的基盤を学習していく。【卒業認定・学位授与の方針：YD-②、YD-③】

■学習到達目標

代謝性疾患治療薬、感染症治療薬、抗悪性腫瘍薬などの薬理作用機序、主な副作用を説明できる。(知識)

薬物の副作用、毒性、相互作用、依存性・耐性について具体例を挙げて説明できる。(知識)

■準備学習（予習・復習）

予習：講義テキスト・参考書の該当箇所に目を通しておく(30分以上)。

復習：講義テキスト・参考書・演習問題等を活用し、講義内容を復習するとともに、関連事項について調べ知識を整理する(30分以上)。

■授業形態

講義

■授業内容

下記の項目に関して、薬物名、薬物の作用機序、個々の薬物の特徴などを説明する。

No.	項目	授業内容	学修／SBOコード
1	病原微生物と薬	抗菌薬、主要な抗菌薬の耐性獲得機構	D-2-15-4
2	//	抗原虫・寄生虫薬、抗真菌薬	D-2-15-4,5
3	//	抗ウイルス薬	D-2-15-4
4	代謝系疾患の薬	糖尿病治療薬	C-7-3-3, D-2-6-5
5	//	脂質異常症治療薬	D-2-6-5
6	//	高尿酸血症・痛風治療薬	D-2-6-5
7	//	骨粗鬆症治療薬	C-7-6-3, D-2-6-5
8	悪性新生物(がん)と薬	抗悪性腫瘍薬 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構	D-2-16-2 D-2-16-3
9	//	抗腫瘍ホルモン関連薬	C-7-14-2,4 D-2-16-3
10	//	分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬	D-2-16-3
11	//	抗悪性腫瘍薬の主な副作用 支持療法の医薬品	D-2-16-3,4
12、13	感覚器・皮膚の疾患と薬	眼疾患の薬 耳鼻咽喉疾患の薬 皮膚疾患の薬	D-2-7-3
14、15	医薬品の安全性	副作用、毒性、相互作用 薬物中毒、薬物依存・耐性	D-1-3-1,3

■授業分担者

野澤 玲子

■課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

演習問題を解いて理解度を確認し、解説等によりフィードバックを行う。

期末試験成績(100%)で評価をする。

■教科書

『パートナー薬理学 第4版』栗原 順一 他 編著(南江堂)

■参考書

『薬がみえる vol.2、vol.3』(メディックメディア)

『グッドマン・ギルマン薬理書(上・下)』高折 修二 他 監訳(廣川書店)